

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成23年10月1日

(2)調査対象期間 平成23年7月～9月期の実績および平成23年10月～12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	19社	63.3%
水産業部会	30社	16社	53.3%
機械工業部会	30社	18社	60.0%
建設業部会	30社	18社	60.0%
観光・サービス業+諸業部会	30社	19社	63.3%
合計	150社	90件	60.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況は前期よりやや悪化、次期は改善の見込み－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成23年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比△43.9**と前回調査時の△40.0より**3.9ポイント悪化**しました。グラフを見ると平均的には、右下がりの傾向となっており業況が悪化してきたことが窺えます。また、各業種の各業況値を鑑みますと、主にこれから収穫最盛期を迎える水産業と観光サービス業諸業で業況改善しているが、他の業種が-50%前後のマイナス水準であり市内経済を取り巻く経営環境は依然としてやや厳しい状況が続いていると見受けられます。

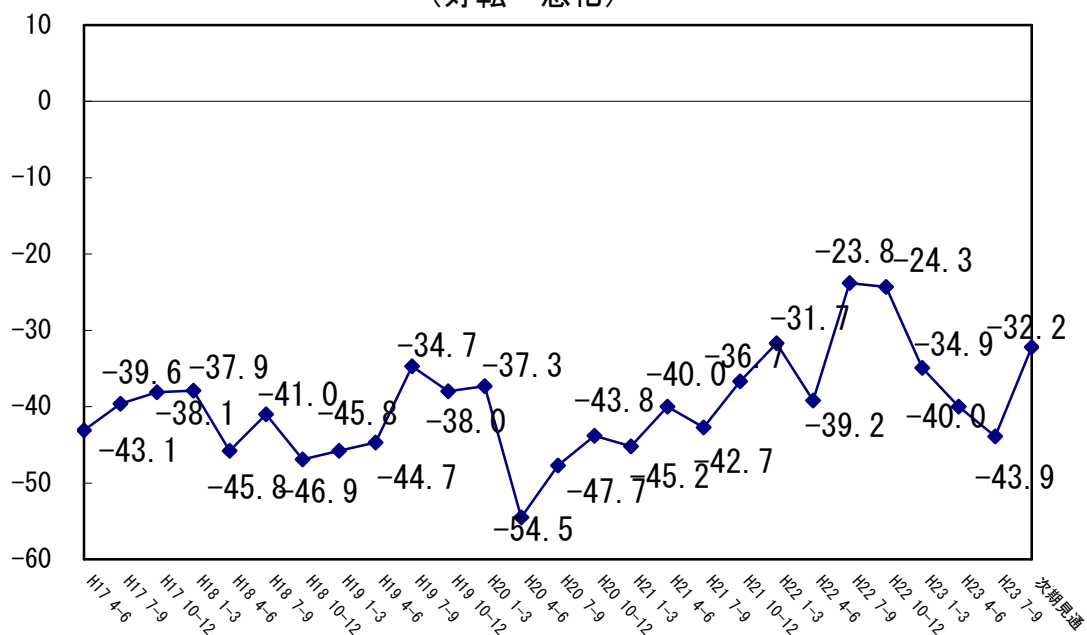
部会別で前年同期比ベースをみると、商業食品業[前期△26.3→今期△52.6]、水産業[前期△42.9→今期△31.3]、機械工業[前期△44.4→今期△66.7]、建設業[前期△37.5→今期△38.9]、観光サービス諸業[前期△47.8→今期△27.8]となりました。水産業は漁の最盛期を迎えホタテが順調なこともあり、秋鮭も単価が高く売上は順調で10月以降はイカが獲れだし次期見通しも明るいようです。また建設業は時期的に繁忙期ですが、業況は横ばいに推移しています。商業食品業は売上が伸びず業況はあまり改善してません。また機械工業は大幅な悪化、観光サービス諸業においては、改善しつつも厳しい数字が続いて、まださえない状況となっています。景気悪化で全体的に意見が少なくなっている傾向にあると思われます。

来期(平成23年10月～12月)については、今期と比べて**業況判断DIは、やや改善傾向**になるとの見通しが寄せられ、特に全体的なDI悪化の影響を直接受ける観光サービス業諸業においては、これから繁忙期を迎える年末にむけて業況回復の期待を持ちたいところですが、消費者の財布のひもが固いうちは、苦しい状況が続くとの見方となっています。業種の中でも唯一水産業だけが見通しを大幅プラス改善するという判断で動いておりますが、こちらは最後の追い込みのホタテ・サケ・イカの水揚げが順調なことからそのような動きになると見えています。

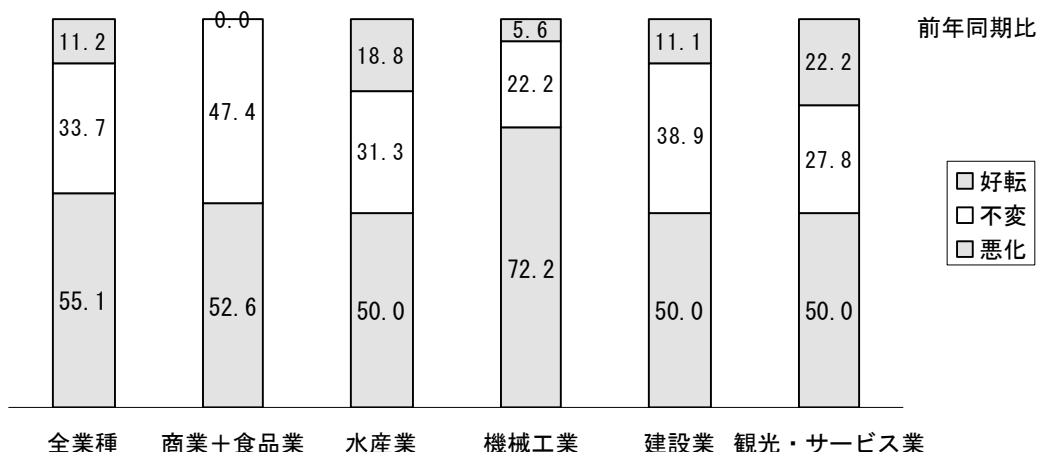
紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

前年同期比

(好転－悪化)



今期の業況（前年同期比）



■部会別の動向

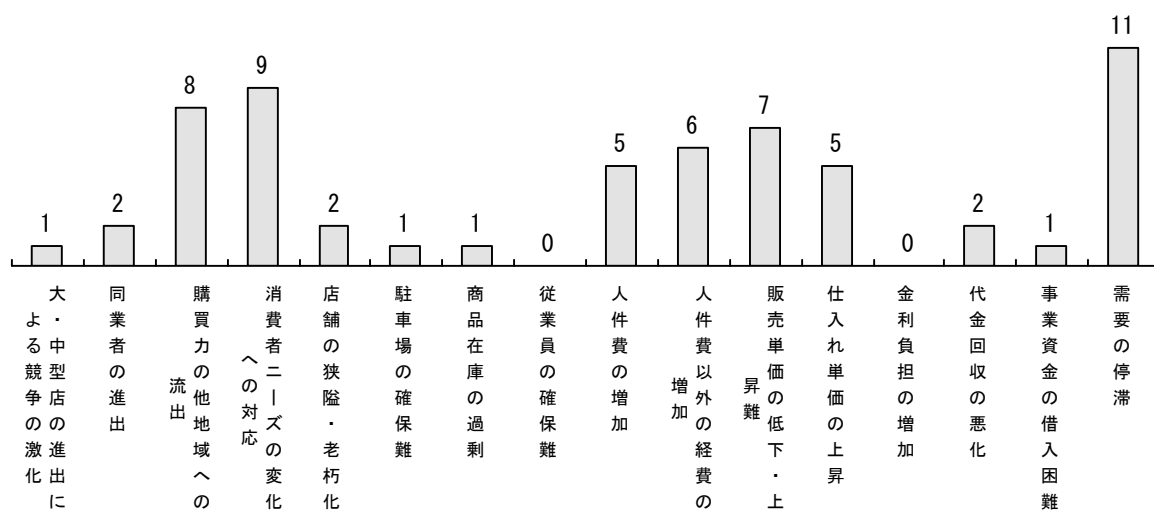
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△52.6（前期△26.3、来期見通し△26.3）〕

業況DI値（前年同期比）は、夏場の商戦時期にもかかわらず大きくマイナス値となり厳しい状況で、前期の業況次期見通しは△26.3と予想していたものの倍以上の指数悪化となってしまいました。景気の悪さや今後の不安定な経済に対して見通しがきかないため、消費者の財布のひもは固く、消費マインドの回復は見えてきません。次期の見通しについては、年末商戦にむけ回復を期待したいところです。今年は商品券事業もないため大きな回復は見込めてません。経営上の問題点としては「需要の停滞」「消費者ニーズの変化への対応」「購買力の他地域への流出」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 小売業全般に流通が巨大化し、大型店重視に移行。一般店の減少。専門店としての存在感が希薄である。又、商材もそれを意識した商品が主流となっている。商品自体が「語りかける」…陳列…コンビニ、量販店を意識した商材の開発にメーカーもシフトしている。（小売）
- ・ 街に人が来ない！（小売）
- ・ 3. 1 1以後の増税議論の為、自衛の為、必要経費外の出費がかなり抑えられていると思うし、消費者の心理状況も冷え込んでいると思うので、かなり切り詰める必要があると思います。（小売）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

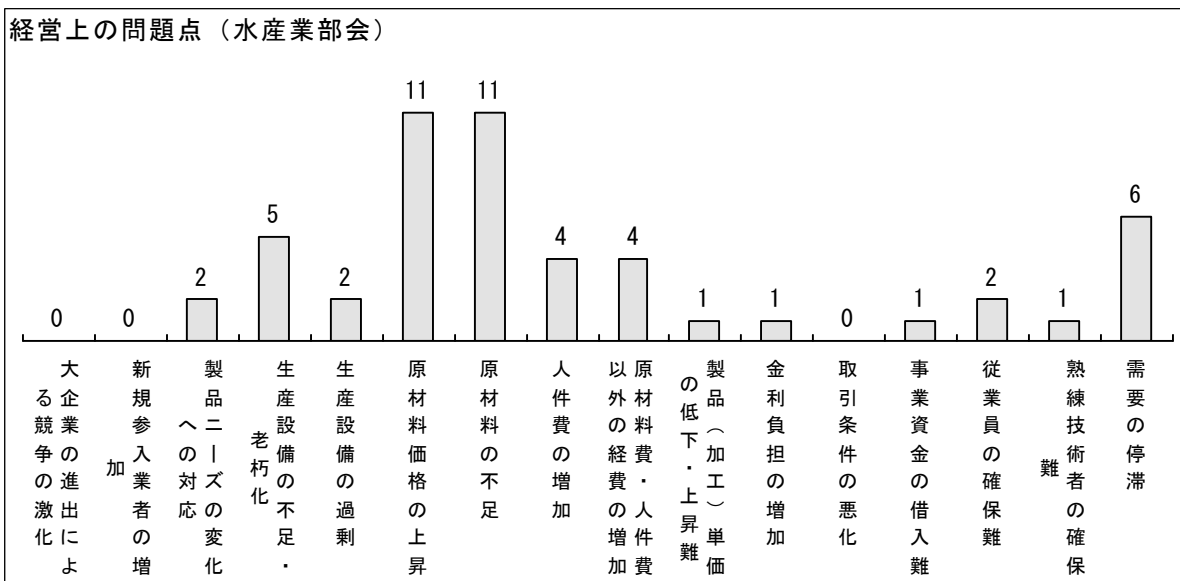


【水産業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△31.3（前期△42.9、来期見通し5.9）]

業況判断DI値（前年同期比）は前期よりも水揚げが本格化したため改善しています。今期の水産業界については、カニの輸入量が非常に少ない中、タラバはほとんどなく主力であるズワイは品薄状態と、業界では原魚確保に非常に苦労しているとの声を聞いております。またホタテは貝毒も出ず順調とのことです。サケの水揚げについては量が少なくても魚価が高いため売上高はよいと聞いており、また10月に入ってから函館方面で不漁といわれているイカが豊漁で水産加工業者は冷凍保存（品薄時期に販売）したり、他の水産物で新たな加工品に挑戦するなど、少しでもカニの売上減を穴埋めできるようにと工夫しており、冬を前にして最盛期をむかえる今後の回復はやや期待されており、来期の見通しについては良くなるだろうとの見通しを立てております。経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」「原材料の不足」となっております。

《業界の問題点等》

- ・ 資材の値上がりが震災の影響で発生してきているので、年末が懸念される。（水産加工）
- ・ 市内での生産拡大（水産加工）



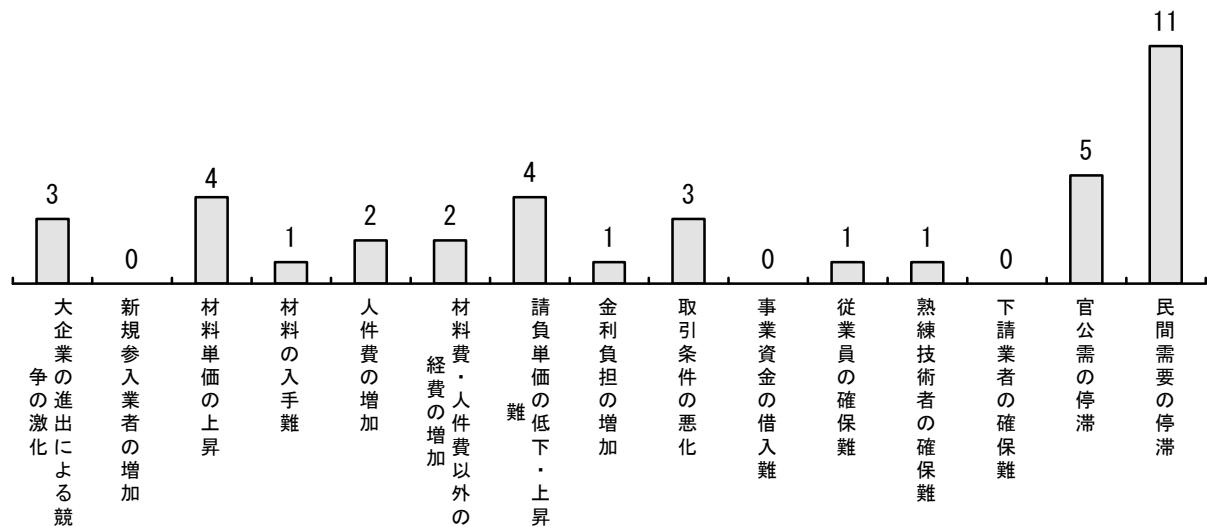
【機械・工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△66.7（前期△44.4、来期見通し△50.0）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前期よりも大幅に悪化しております。車の購入が一段落しており新車購入にはまだ時間がかかりそうであり、また3年前からの自動車補助金や減税対象で購入した車の車検時期がまだ到来しないため業界は動きが乏しくなっているものと思われます。次期の見通しについては今期よりは回復するものの以前指数は-50と非常に厳しい状態となっています。経営上の問題点として、「民間需要の停滞」や「官公需の停滞」、「材料単価の上昇」を訴える声が多く寄せられている。

《業界の問題点等》

- ・ 為替の円高。（製造機械）
- ・ 人口密度の減少で売上減（自動車販売）
- ・ 世界的な恐慌では？（自動車整備）

経営上の問題点（機械・工業部会）



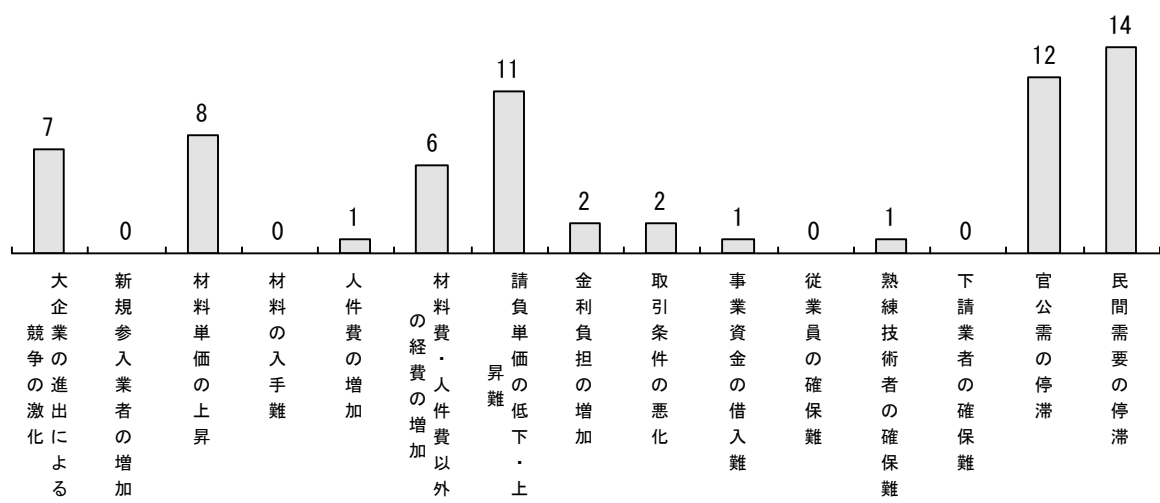
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△17.6（前期△47.4、来期見通し△17.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は夏の繁忙期を迎え、前期よりはやや改善した状況となっています。しかしながら来期への見通しは横ばいと、冬を前に回復しない状況は続いていきます。公共事業の減少は非常に大きく経営にのしかかっているとの声も聞かれます。これ以上厳しい状態が続くことに限界を感じた建設業界は、緊急で建設業部会幹事会議を複数回開催し、商工会議所会頭とともに、市役所に対し公共事業発注書類等の改善措置や今後地元優先とする公共事業発注を強く要望するという形で、会頭および建設業部会長をはじめ建設業界を代表する数名とともに11月に陳情してきたところです。今後の市役所の対応と回答を待ちます。経営上の問題点としては、「請負単価の低下・上昇難」、「民間・官公需の停滞」など経営収支を圧迫させる内容となっております。

《業界の問題点等》

- ・ 広域紋別病院建設には紋別の業者を使うようにしてほしい。（建設）
- ・ 材料単価の増加。（電気）

経営上の問題点（建設業部会）



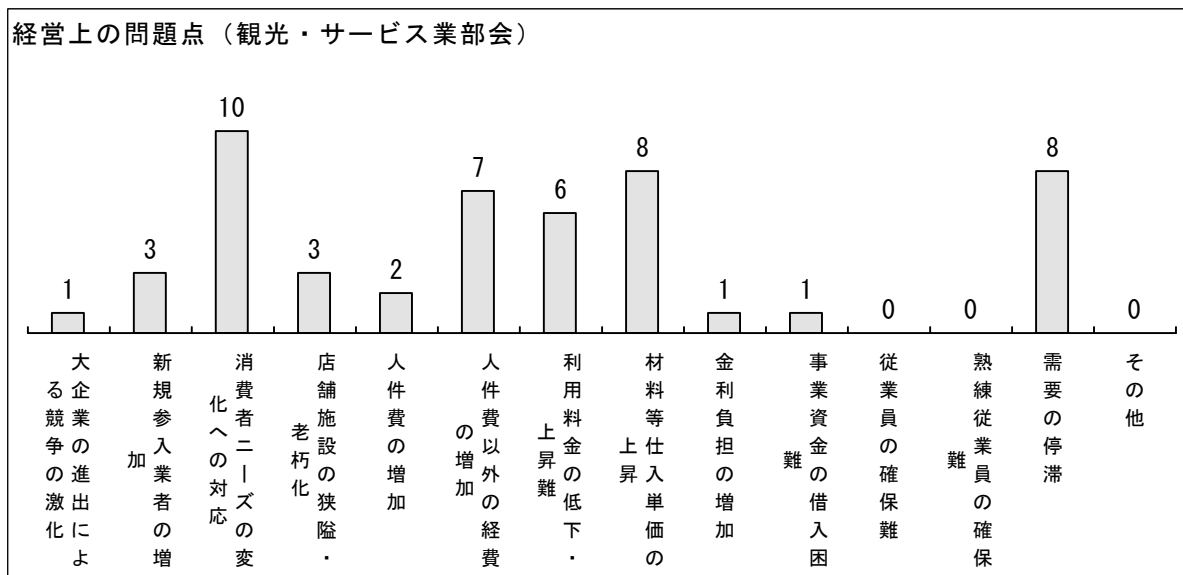
【観光・サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△27.8（前期△47.8、来期見通し△55.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は暑い夏の影響や震災あとの消費自粛状態が薄れてきて若干改善しています。来期は年末にむけて回復したいところだが、さらに悪化すると見通しは暗くなっています。震災の影響で材料仕入れの面で単価上昇や材料入手困難（主に魚介類）という声も聞いております。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者ニーズへの変化への対応」「材料仕入れ単価の上昇」「人件費以外の経費の増加」という声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

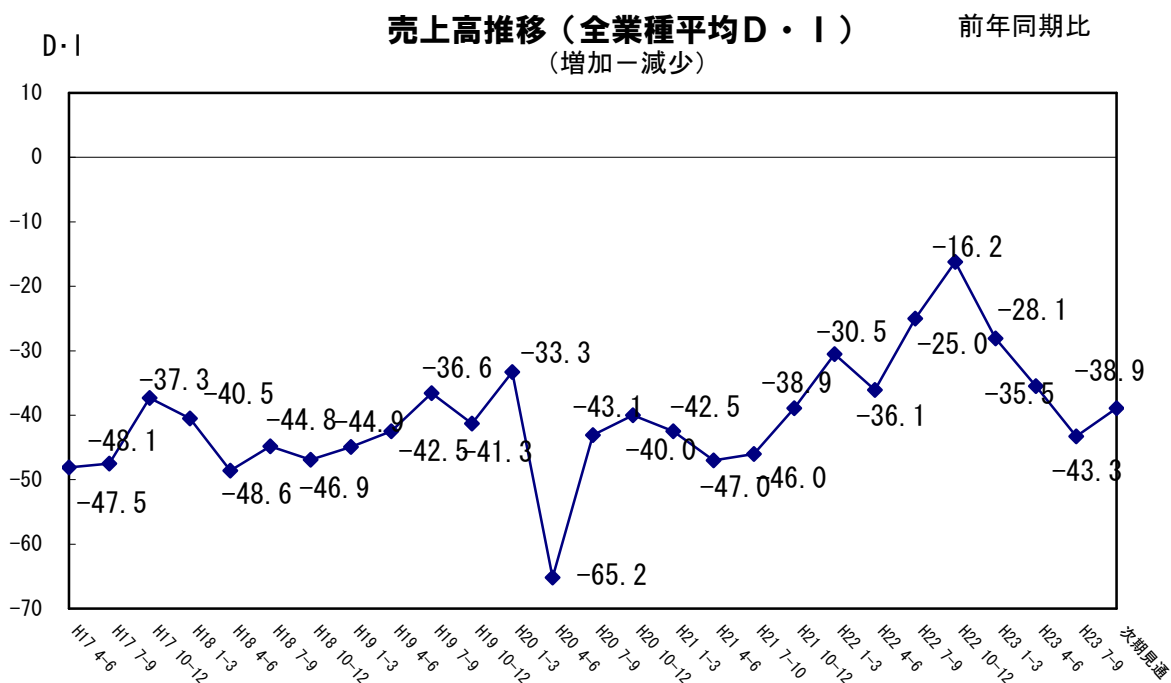
- ・ 紋別版海鮮マルシェの様なイベントはいかがでしょうか？（飲食）
- ・ 休みが取れない（一部経営者）。売上増が見込めない。（飲食）
- ・ 厳しい環境下で努力していきます。（サービス）
- ・ 一向に好転しません。（理容）
- ・ 次期については、直行便が無くなるため、悪化の見通し。当店の50%以上が関東方面のお客様が多く、来年以降、羽田⇄紋別間直行便が廃止になれば店も閉めなければならない。仮にANAが駄目なら「AIRDO」か「スカイマーク」で就航して欲しい。（飲食）
- ・ 人口減少（サービス）



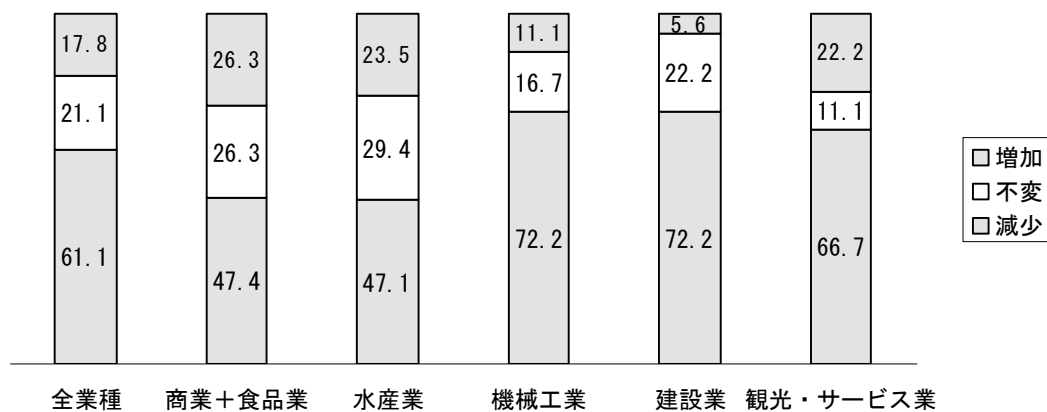
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 22 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）

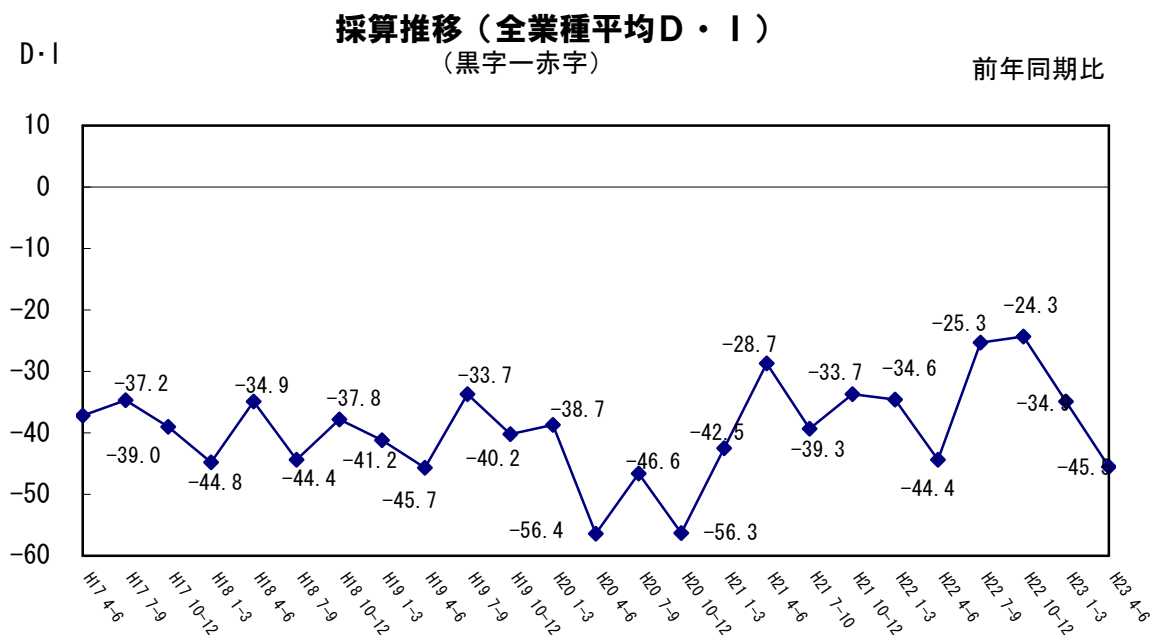


全業種平均で DI 値△43.3〔前年調査時（平成 22 年 7～9 月期△36.1）より 7.2 ポイント悪化〕

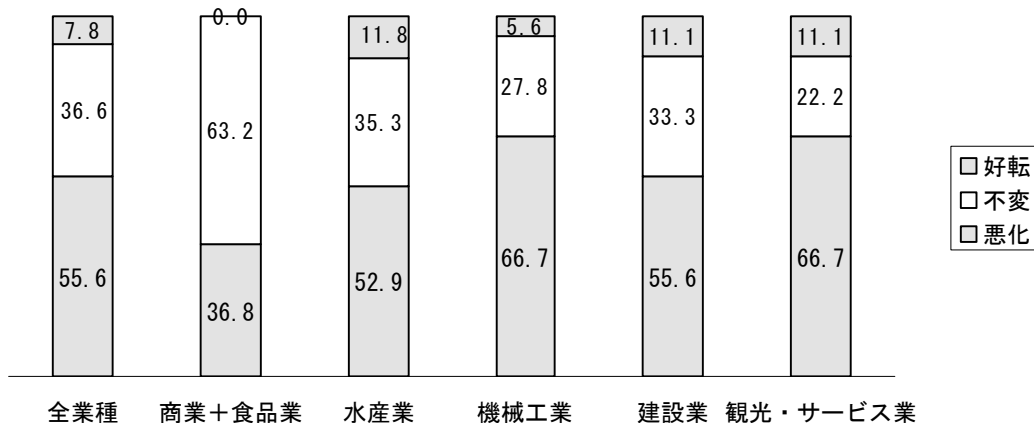
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年△23.5→△21.1〕、水産業〔前年△ 9.1→△23.5〕
 機械工業〔前年△ 6.3→△61.1〕、建設業〔前年△35.3→△66.7〕
 観光・サービス業〔前年△39.1→△44.4〕

(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 22 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の採算水準）



今期の採算（前年同期比）

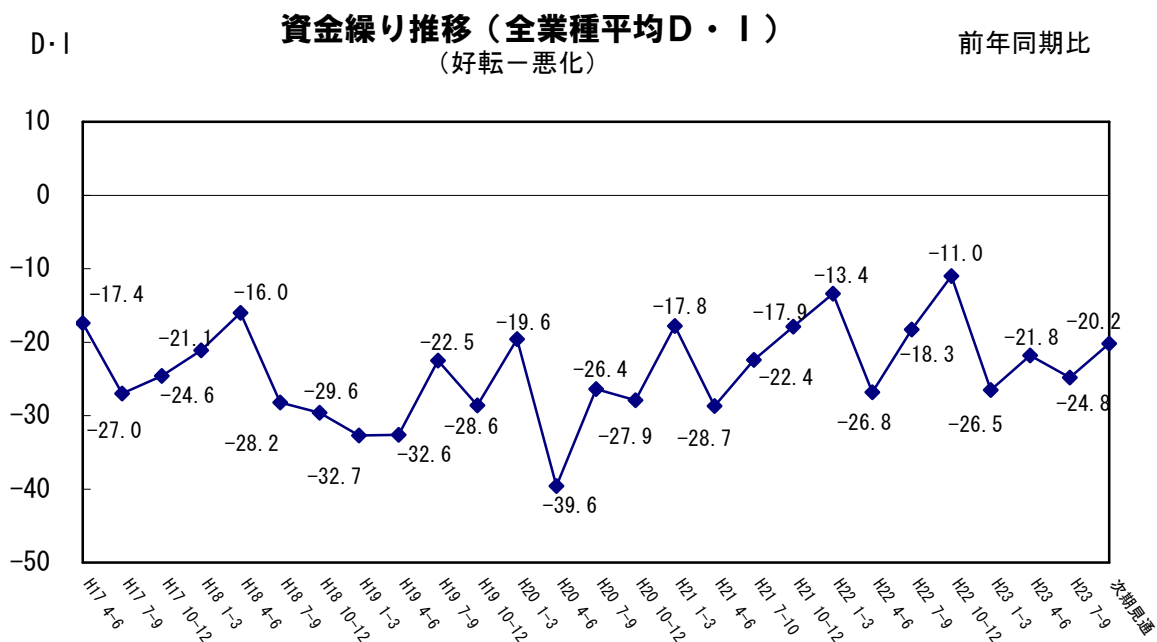


全業種平均で DI 値△47.8〔前年調査時（平成 22 年 7～9 月期△25.3）より 22.5 ポイント悪化〕

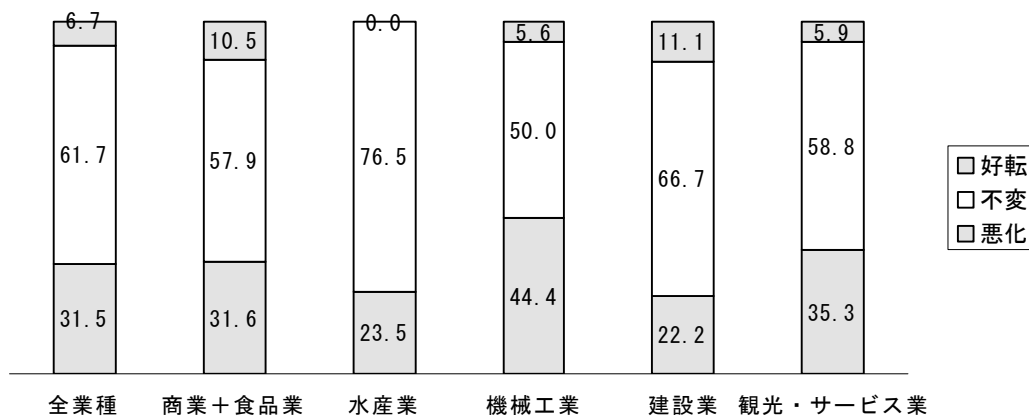
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年△17.6→△36.8〕、水産業〔前年△18.2→△41.2〕
 機械工業〔前年△ 6.3→△61.1〕、建設業〔前年△35.3→△44.4〕
 観光・サービス業〔前年△40.9→△55.6〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 22 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



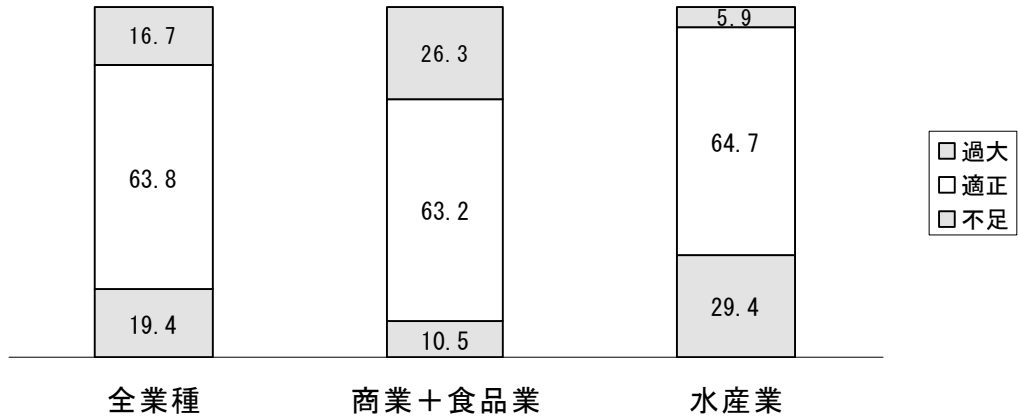
全業種平均でDI 値△24.8〔前回調査時（平成 22 年 7～9 月期△18.3）より 6.5 ポイント悪化〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年△ 5.9→△21.1〕、水産業〔前回△ 0.0→△23.5〕
 機械工業〔前年△18.8→△38.9〕、建設業〔前回△17.6→△11.1〕
 観光・サービス業〔前年△38.1→△29.4〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 22 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



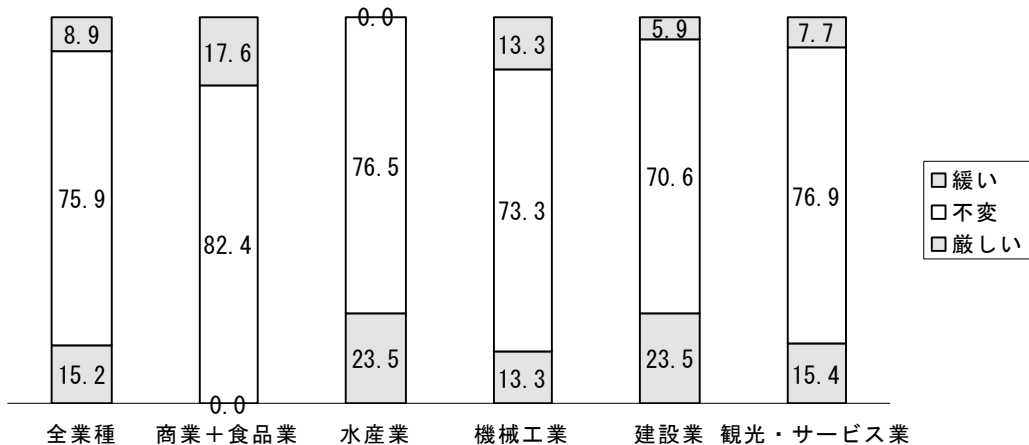
全業種平均で DI 値 $\Delta 2.7$ [前回調査時（平成 22 年 4～6 月期 7.2）より 9.9 ポイント在庫減少]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前年 11.8→15.8]、水産業 [前年 $\Delta 0.0 \rightarrow \Delta 23.5$]

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 22 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

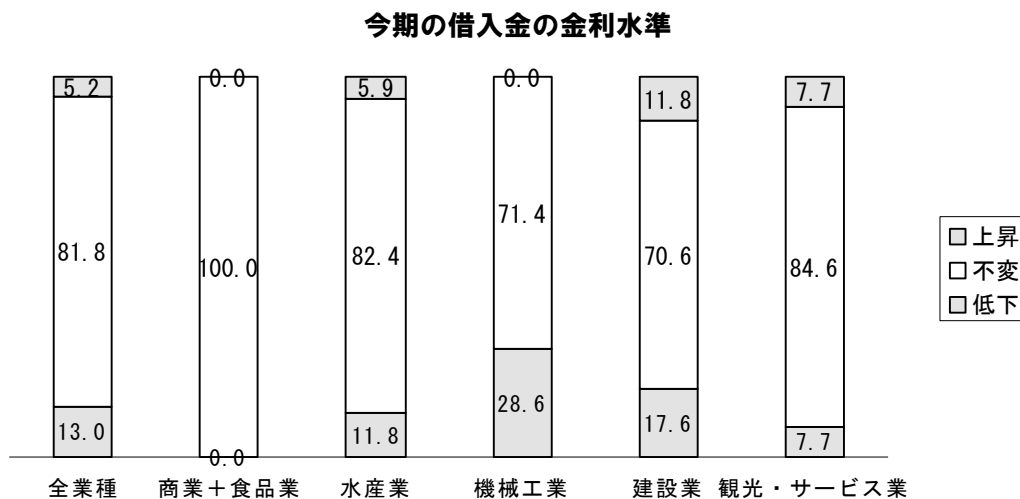
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で $\Delta 6.3$ ポイント。商業食品業 17.6 水産業 $\Delta 23.5$ 機械工業 $\Delta 0.0$ 建設業 $\Delta 17.6$ 観光サービス業諸業 $\Delta 7.7$

(6) 今期の借入金の金利水準

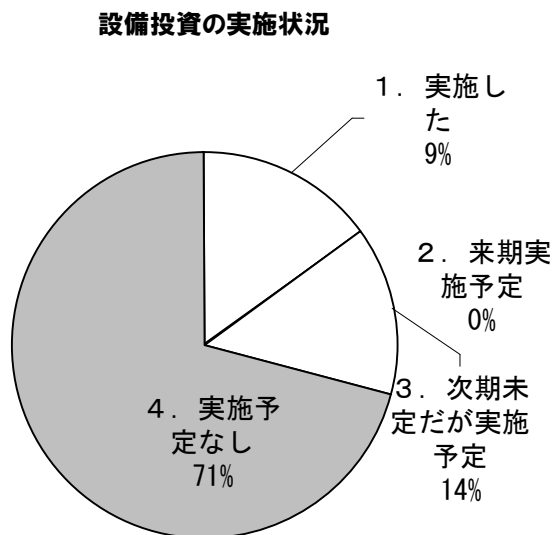
【前年同期比】（平成 22 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で $\Delta 7.8$ 。商業食品業 $\Delta 0.0$ 水産業 $\Delta 5.9$ 機械工業 $\Delta 28.6$ 建設業 $\Delta 5.9$ 観光サービス諸業 0.0

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

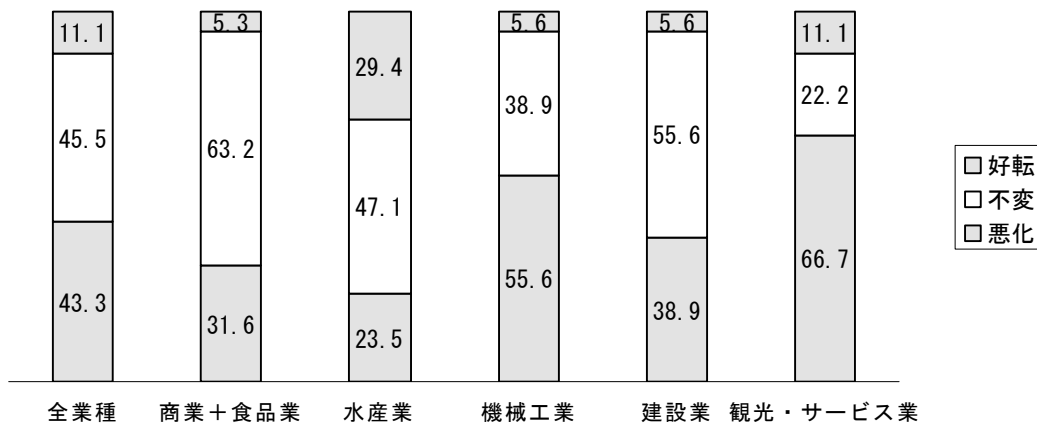


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 23 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

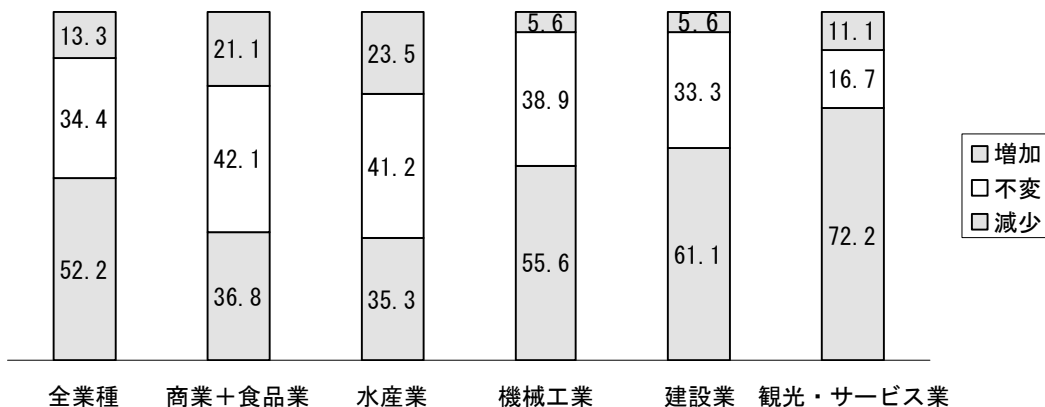


全業種平均 DI 値△32.2 [今期の業況（前年同期比△43.9）より 11.7 ポイント改善の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 23 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

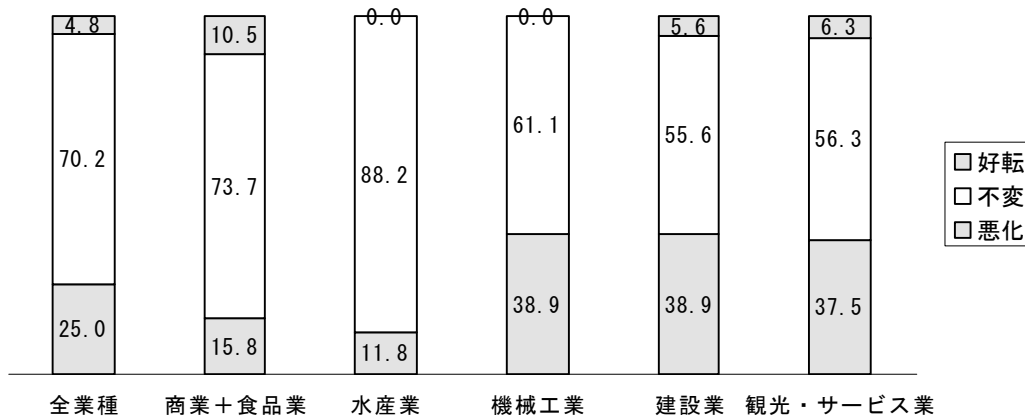


全業種平均 DI 値△38.9 [今期の売上高・生産高（前年同期比△43.3）より 4.4 ポイント改善の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 23 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 $\Delta 20.2$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 24.8$ ）より 4.6 ポイント改善の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	$\Delta 43.9$	$\Delta 52.6$	$\Delta 31.3$	$\Delta 66.7$	$\Delta 38.9$	$\Delta 27.8$
	来期見通し	$\Delta 32.2$	$\Delta 26.3$	5.9	$\Delta 50.0$	$\Delta 33.3$	$\Delta 55.6$
売上 D・I	今期実績	$\Delta 43.3$	$\Delta 21.1$	$\Delta 23.5$	$\Delta 61.1$	$\Delta 66.7$	$\Delta 44.4$
	来期見通し	$\Delta 38.9$	$\Delta 15.8$	$\Delta 11.8$	$\Delta 50.0$	$\Delta 55.6$	$\Delta 61.1$
在庫 D・I	今期実績	$\Delta 2.7$	15.8	$\Delta 23.5$	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	$\Delta 47.8$	$\Delta 36.8$	$\Delta 41.2$	$\Delta 61.1$	$\Delta 44.4$	$\Delta 55.6$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 24.8$	$\Delta 21.1$	$\Delta 23.5$	$\Delta 38.9$	$\Delta 11.1$	$\Delta 29.4$
	来期見通し	$\Delta 20.2$	$\Delta 5.3$	$\Delta 11.8$	$\Delta 38.9$	$\Delta 33.3$	$\Delta 31.3$
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	$\Delta 6.3$	17.6	$\Delta 23.5$	$\Delta 0.0$	$\Delta 17.6$	$\Delta 7.7$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	$\Delta 7.8$	$\Delta 0.0$	$\Delta 5.9$	$\Delta 28.6$	$\Delta 5.9$	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。